

**大阪市西部地域障がい者就業・生活支援センター
管理者 今井 布美**



今年度、大阪市西部地域障がい者就業・生活支援センターの管理者を拝命いたしました今井布美と申します。

西部就ぼつには以前に一年間従事させていただいており、4年ぶりに戻ってまいりました。たった一年では経験不足のうえ、4年前とは制度もたくさん変わっていることと思います。経験が少ないだけでなく不器用な私にとって、林前管理者の後任になることはとても勇気のいることでしたが、やると決めた以上私なりに精一杯勉強しつつ、一人一人に合った仕事や生活のスタイルを一緒に考えていけるような支援を心掛けていきたいと思っています。

大阪市就ぼつのホームページには、「働くことの意味や必要性」「働くために必要なこと・準備すること」「暮らすことを続けるために必要なこと」「暮らすための地域の利用資源」「希望に添って、働く・暮らすための目標設定」を一緒に考えることが、私たち就業支援ワーカーの務めであると掲載されています。知識だけでなく、他機関や就業先との連携・寄り添う気持ち等たくさんのことが求められています。

「働く」「暮らす」ということは、生きていくうえで必要なことですが、悩みが尽きないことでもあり、一人では解決できないことがたくさんあります。そういつたときに、少しでも力になることがあればと思っています。ワーカーは3名しかいないので、日々バタバタしておりますが、外部だけでなく所内での連携も大切にしておりますので、ご安心いただけたらと思います。

「障がいのある人が安心して心豊かにすごせるように」ワーカー一丸となって支援していきたいと思えます。至らないところもあると思いますが、一年間よろしく願いいたします。

居宅介護事業所 管理者 服部 剛志



引き続き、居宅介護事業所の管理者を拝命しました服部です。今年度もよろしくお願いいたします。

居宅介護事業所での勤務も3年目に入りました。着任し

た2年前が、新型コロナウイルスの感染拡大で最初の緊急事態宣言が発出された時期で、振り返ればこの2年間はコロナに翻弄された2年間でした。

コロナの影響でサービスの利用控えが増え、事業所からも利用の自粛要請をしてきたことで、事業収入が大きく落ち込むこととなり、事業所運営にも大きな影響が出ています。また、登録ヘルパーの減少や高齢化も進んでいます。利用したいとのご希望に対して、派遣ができないケースも多々あり、大変申し訳なく思います。これらの現状を踏まえ、育成会内で検討のうえ、今年10月から居宅介護事業所の事業運営のあり方を大幅に見直すこととなりました。育成会としても事業計画において「選択と集中」を図る方針を出していますが、居宅介護事業所でも、事業圏域を見直すなど適切なサービス提供ができる体制に移行していくことになりました。契約されている皆さまには、このたび4月から9月末までの半年間で契約を更新させていただきました。その際に、見直し後はサービスを受けられなくなるのかとのお問い合わせも多くいただいております。事業所としては、サービスが出来る限り継続できるようにするとともに、関係機関とも連携を図りながら調整を行い、最大限の配慮をさせていただきたいと考えております。

事業所においても、サービス提供責任者の人数が年々減少し、この4月からは管理者を含めて4名の体制となりました。サービスをご利用の皆さまには、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、何卒、事業運営にご理解をいただきますよう、ご協力をお願いいたします。

メープル 管理者 角森 佐岐子



【歩み続ける一年に】

今年度もグループホーム<メープル>を担当することになりました。よろしくお願いいたします。

満開の桜に足を止めることも無く、慌ただしく新年度を迎えてしまいました。

お陰様で昨年度の課題であったホームの移転は順調に進み、残すところ一軒の目途も付きました。ワンルームでの暮らしや結婚に向けての二人暮らしなど、ご本人の望む暮らしが実現するのを見ていると私たち支援者も嬉しくなります。